



## 中津城を外から攻略！ぐるっと外周コース

所要時間徒歩約80分  
(各地点の見学時間は含まれていません)

チャレンジしてみる？

- A** 中津城公園 (3分)
- B** 水門跡 (2分)
- C** 西門跡 (3分)
- D** 小倉口 (外堀が見える) (3分)
- E** 渡守口 (広津口) (4分)
- F** おかこい山 (自性寺境内) (3分)
- G** おかこい山 (金谷口) (2分)
- H** 金谷武家屋敷跡 (組屋敷の短冊型の町割りが残る) (4分)
- I** 諸町 (江戸時代の職人の町) (4分)
- J** 勢溜 (せいだまる) (兵火や洪水から町を守るための広場) (4分)
- K** 寺町 (多くの寺が城下町の守りを固める) (6分)
- L** おかこい山 (鷹匠町) (8分)
- M** 豊後街道 (江戸時代の商人の町並みが残る) (4分)
- N** 福澤諭吉旧居 (3分)
- O** 一番橋 (外堀が見える) (3分)
- P** 閻無浜神社 (下紙巻の山車が繰る) (4分)
- Q** 御船寄 (藩主の御座船の発着所跡) (6分)
- R** 運上場 (船の荷揚げ場跡) (4分)
- S** 武家屋敷跡 (幕末の屋敷跡を整備) (5分)
- T** 古代山城の石を使った石垣 (河川敷公園) (3分)

地図中の①～⑨は右面の施設番号と一致します。



自性寺のおかこい山(県指定史跡) 鷹匠町のおかこい山(市指定史跡)

## 中津城の歴史

中津城は福岡県との県境を形成する山国川の支流中津川の河口沿いに位置します。北は海、西は川に面した要衝の地であり、堀の水がさは潮の干満で上下します。東は二重、南は三重の堀を有し、外堀には「おおかこい山」と呼ばれる土塁をめぐらせていました。

**1587(天正15)年**、豊臣秀吉は九州を支配下にいれ、豊前6郡の領主として、**黒田孝高(如水)**を入国させました。孝高は1588年、中津城の築城を行います。中津城は九州で最古の近世城郭の一つで、築城当初の石垣を見ることができます。

**1600(慶長5)年**、細川忠興が入国し、中津城に息子の忠利を入れました。忠利は1603年から1620年にかけて中津城の増改築を行いました。1615(元和元)年「一国一城令」により、破却の危機に瀕しましたが、忠興の尽力により例外的に中津城は残ることができました。1620年、忠興は隠居して三斎と号し、中津城に入ります。三斎の隠居城として修復・完成した中津城には、本丸、二の丸、三の丸と8門、22の櫓が設けられ、現在の形がほぼ整いました。

**1632(寛永9)年**、小笠原長次が入国します。小笠原時代には、細川氏以降すめられていた御水道や城下町の整備がほぼ整い、現在でもその町割りが残っています。

**1717(享保2)年**に奥平昌成が入国し、以後1871(明治4)年の廃藩置県によって廃城するまで、中津城は中津藩主の居城として存続しました。

廃藩置県後は、堀の多くは埋められ、本丸跡と三の丸跡の境の石垣は道路建設に伴い一部取り崩されました。1877(明治10)年には、西南の役により蜂起した中津隊の襲撃にあい、中津支庁として利用されていた「松の御殿」が焼失するなど、城内の風景は変わっていきました。昭和に入ると中津城天守閣建築の機運が高まり、1964(昭和39)年に現在の模擬天守閣が建設されました。

**2001(平成13)年**、中津市では、城内の石垣調査および発掘調査をスタートさせ石垣改修工事を着手しました。調査の結果、多くのことが判明しました。2008(平成20)年に工事は一旦終了していますが、今後も調査を継続していく予定です。

### ①中津城天守閣

現在の中津城天守閣は、奥平家により市民の協力のもと昭和39年に建設された。天守閣の内部では、徳川家康より拝領した白鳥の鞘の槍や、長篠合戦図、歴代藩主の鑑など奥平家の宝物類、その他古絵画や古文書などを展示している。

入館料：大人個人400円、高校生個人200円、小学生個人150円  
開館時間：9時～17時  
休館日：無休  
連絡先：0979-22-3651

### ②中津城内の神社

- 奥平神社…中津藩主の奥平氏の祖・美作守貞能、美作守信昌、大膳大夫家昌の三公を祀る。
- 中津大神宮…1878(明治11)年、伊勢皇太神宮の御分霊を祀り創建。
- 城井神社…1588(天正16)年黒田氏に謀殺された宇都宮鎮房を祀る。境内末社の扇城神社には鎮房の従臣を祀る。
- 金比羅宮…海上交通の守り神として信仰。
- 中津神社…新魚町の六所宮、諸町の恵比寿社などを合祀し、1883(明治16)年に創建。城内下段の松の御殿跡に鎮座。

### ③蓬菜園(ほうらいえん)

もとは1882(明治15)年に建築された劇場「蓬菜園」があり、歌舞伎役者たちが続々興行し、多くの観客を集めていた。戦時中の強制疎開により、建物は取り壊しにあったが、戦後に現在の庭園として整備された。敷地内に新たに建てられた蓬菜園では、食事を楽しむことができる。

入場料：無料  
入場時間：10時～18時  
定休日：毎週火・水曜、12月29日～31日  
連絡先：0979-22-0538

## 中津城の年譜

領主	西暦	和暦	事項
黒田時代	1587年	(天正15)	黒田孝高、豊前6郡の領主として入国。
	1588年	(天正16)	黒田孝高、丸山城を修補し中津城の造営を開始。
細川時代	1600年	(慶長5)	細川忠興、豊前一円及び速見、国東2郡の領主として入国。
	1603年～1620年	(慶長8)～(元和6)	西門を含む三の丸が完成。
	1607年	(慶長12)	豊臣氏滅亡。一国一城令。豊前国のうち小倉城以外に中津城は残る。
	1615年	(元和元)	忠興が隠居、中津城へ入城。細川時代の中津城整備完成。
小笠原時代	1632年	(寛永9)	小笠原長次が中津の領主として入国。
	1652年	(承応元)	中津城下の整備がほぼ終了。(御水道の整備や現在の町割りや整う)
奥平時代	1683年	(天和3)	城門、櫓の普請を行う。
	1686年	(貞享3)	城内上段の奥殿・櫓で火事。
	1717年	(享保2)	奥平昌成、中津の領主として入国。
	1737年	(元文2)	煙硝の爆発により鉄門付近の二重櫓が火事。
近現代	1813年	(文化10)	武具倉焼失。
	1844年	(弘化元)	本丸で火事。
	1863年	(文久3)	城内に「松の御殿」築く。
	1869年	(明治2)	西門付近「陣道具倉」焼失。
	1871年	(明治4)	廃藩置県により、中津城廃城。
	1877年	(明治10)	中津隊の襲撃により「松の御殿」焼失。
	1878年	(明治11)	中津大神宮創建。
1879年	(明治12)	現在地に奥平神社を祀る。	
1883年	(明治16)	松の御殿跡に中津神社鎮座。	
1904年	(明治37)	公園内に独立自尊の碑建立。	
1964年	(昭和39)	現在の中津城天守閣建設。	
1981年	(昭和56)	中津市指定史跡に指定。	
2001年	(平成13)	中津城石垣調査、城内発掘調査開始。	
2008年	(平成20)	石垣修復工事一時終了。	

### ④中津市木村記念美術館

江戸時代後期の中津藩御典医・中村家の屋敷門が、門として現存。平成22年に市の常設展示室としてリニューアルオープンし、洋画家・中山忠彦画伯を始め、中津にゆかりの深い作家の美術資料を展示・収蔵している。

入館料：一般200円、大高生100円、中学生以下無料  
開館時間：9時～17時  
(入館は16時30分)  
休館日：毎週火曜(祝日の場合はその翌日)、12月29日～1月3日  
連絡先：0979-22-7767

### ⑤自性寺・大雅堂

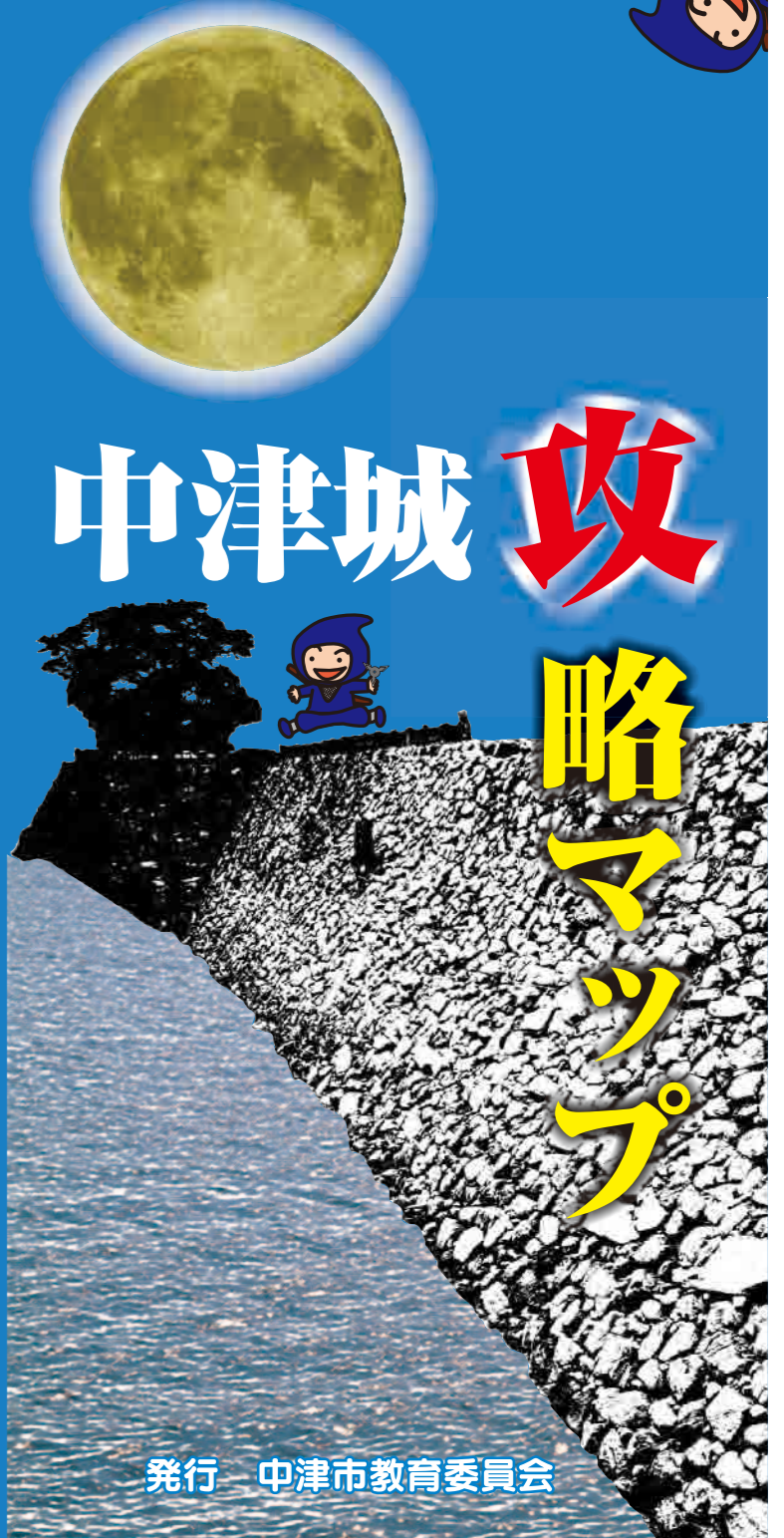
自性寺は奥平家歴代の菩提寺であり、1711(享保2)年6代藩主昌成の中津藩転封に伴い新魚町に移り、建てられた。宝暦年間に滞在した、南面の大家・池大雅が書院の襦に描いた県指定有形文化財の書画46点を中心に展示している。敷地内には県指定史跡の中津城おおかこい山がある。

<大雅堂>  
観覧料：大学生以上個人500円、小・中・高校生個人300円  
開館時間：9時～17時  
休館日：無休  
連絡先：0979-22-4317

### ⑥村上医家史料館

村上家は、初代・宗伯が1640(寛永17)年に諸町に医院を開業して以降、代々中津藩の御典医を務めた家柄で、現在も医家の家系が続く。1826(文政9)年築の旧医院を利用して医家史料館を開館。当時の雰囲気そのままに、参勤交代に用いられた薬籠や薬箱、7代玄水が行った人体解剖の記録などを展示している。

入館料：一般210円、大高生100円、中学生以下無料  
開館時間：9時～17時  
(入館は16時30分)  
休館日：毎週火曜(祝日の場合はその翌日)、12月28日～1月3日  
連絡先：0979-23-5120



### ⑦中津市歴史民俗資料館

小幡篤次郎の生誕地にある。篤次郎の蔵書を元に、1909(明治42)年に小幡記念図書館を建設。平成4年に、市内の考古・民俗資料等を紹介する歴史民俗資料館として再出発した。現在の建物は国の登録文化財。前庭には中津城の上水道施設である御水道の模型を展示している。

入館料：無料  
開館時間：9時～17時  
(入館は16時30分)  
休館日：毎月第4水曜、12月28日～1月3日  
連絡先：0979-23-8615

### ⑧大江医家史料館

大江家は、初代玄仙以来、中津藩主の御典医を務めた。大江家の旧宅を利用して医家史料館として開館。有名な解体新書や華南流の医学書、中津藩の種痘関係資料などを展示している。敷地内の薬草園では、一年中珍しい薬草を見ることができる。

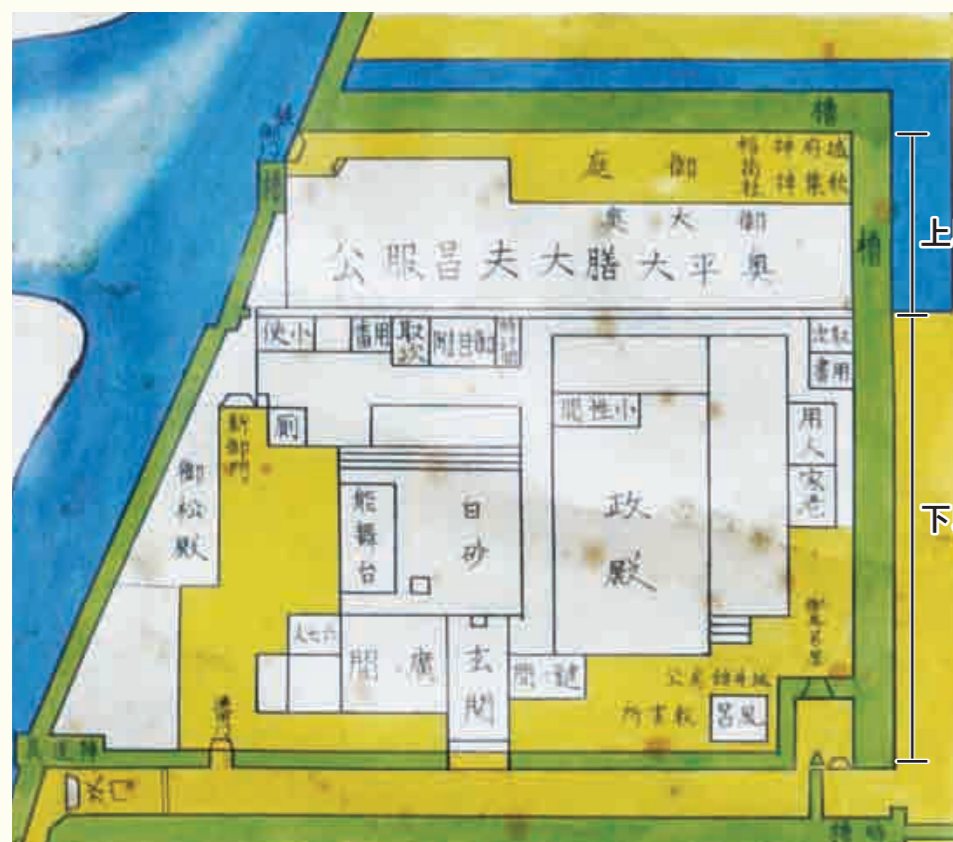
入館料：一般210円、大高生100円、中学生以下無料、薬草園無料  
開館時間：9時～17時  
(入館は16時30分)  
休館日：毎週火曜(祝日の場合はその翌日)、12月28日～1月3日  
連絡先：0979-22-0049

### ⑨福澤諭吉旧居

慶應義塾大学創設者である福澤諭吉が、19歳で長崎に遊学するまで過ごした旧宅が残る。庭には諭吉自らが改造し、勉学に励んだ土蔵を見ることが出来る。隣接する記念館では、諭吉の足跡を紹介している。

入館料：高校生以上個人400円、中学生以下個人200円  
開館時間：8時30分～17時  
休館日：12月31日  
連絡先：0979-25-0063

# 中津城の中心部を攻略!



本丸内の建物配置図(幕末のころ)  
(中津城天守閣所蔵絵図の一部)

①土手上に、近年白壁がつくられた。その屋根瓦が接着している石垣の石が古代山城の石垣である。一边が切り落とされており、これを目印に同様の石を探してみよう。

②石垣にy字状に目地がとある。西側が最初に築かれた黒田の石垣で、東側が細川の石垣。黒田の石垣は古代山城の石の再利用のため四角い。

③写真は、かつての北門櫓の石垣。川沿いの石垣は今では土手に埋められ見えなくなっている。

④本丸北側と西側には、7世紀に直方体加工された古代山城の石(唐原山城)が多数持ち込まれて使用されている。一边を断面し字に切り落としているのが特徴。裁判所前の石垣やその裏側にもいくつかある。

⑤鉄門跡  
幕末の絵図には鉄板を用いた強固な門扉が描かれている。トンネル状の通路の階段を登ると城内に通じていた。今はふさがれている。

⑥細川三斎(忠興)は三口の井堰から上水道を城内に引き込んだ。防火用水としても使用された池は三斎にちなんで三斎池という。上水道は「お水道」とよばれ、城下町内を流すと、お水道の施設が発見される。

⑦複数の中津城絵図には、鉄門横の櫓台に最も高い(三層)櫓が描かれている。天守閣があったとすればこの場所が候補地である。

⑧古くは角塔婆という墓石を横たえて踏み段にしている。三角の頭と水平の刻線が特徴。

⑨工事中に見えられた城内側の石垣には、階段があった。一番上の段は角塔婆という墓石を横たえて踏み段にしている。三角の頭と水平の刻線が特徴。

⑩河川敷公園

⑪鉄門跡

⑫模擬天守閣

⑬水門跡

⑭三の丁駐車場

⑮中津市立小幡記念図書館

⑯木村記念美術館

⑰中津市立小幡記念図書館

⑱木村記念美術館

⑲中津市立小幡記念図書館

⑳木村記念美術館

㉑中津市立小幡記念図書館

㉒木村記念美術館

㉓中津市立小幡記念図書館

㉔木村記念美術館

㉕中津市立小幡記念図書館

㉖木村記念美術館

㉗中津市立小幡記念図書館

㉘木村記念美術館

㉙中津市立小幡記念図書館

㉚木村記念美術館

㉛中津市立小幡記念図書館

㉜木村記念美術館

㉝中津市立小幡記念図書館

㉞木村記念美術館

㉟中津市立小幡記念図書館

㊱木村記念美術館

㊲中津市立小幡記念図書館

㊳木村記念美術館

㊴中津市立小幡記念図書館

㊵木村記念美術館

㊶中津市立小幡記念図書館

㊷木村記念美術館

㊸中津市立小幡記念図書館

㊹木村記念美術館

㊺中津市立小幡記念図書館

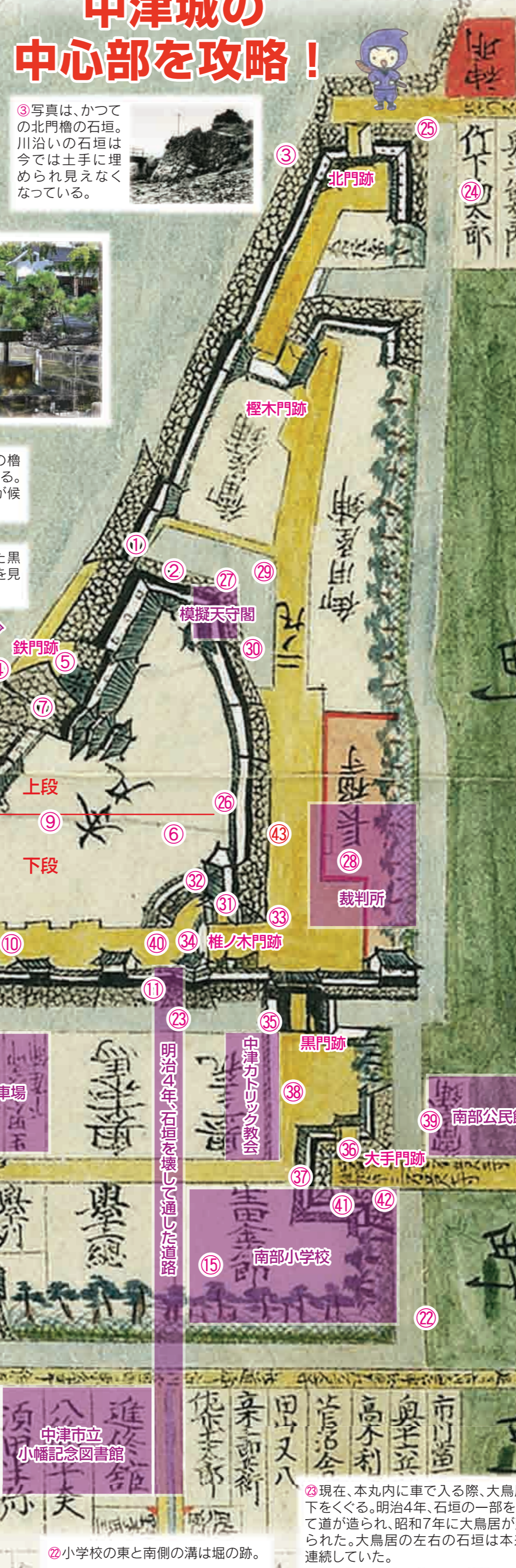
㊻木村記念美術館

㊼中津市立小幡記念図書館

㊽木村記念美術館

㊾中津市立小幡記念図書館

㊿木村記念美術館



⑲小倉口  
中津城に入る6つの木戸口の一つ。小倉側に通じる橋が架かっていた。現在はコンクリートの橋だが、幕末の絵図では、太鼓橋が描かれている。橋から南側を見ると堀跡の面影が残る。

⑳西門石垣にはかつて「慶長12年9月」の文字が刻まれていた。上段は積みなおされている。矢穴のある割り石を多く使用。

㉑三ノ丁の齒科の庭にはおかい山の土壘があり、診察室から見える。また絵図に描かれている櫓台の石垣が残る。(櫓台の石垣は見学不可)

㉒小学校の東と南側の溝は堀の跡。

㉓現在、本丸内に車が入る際、大鳥居の下をくぐる。明治4年、石垣の一部を壊して道が通られ、昭和7年に大鳥居が建てられた。大鳥居の左右の石垣は本来は連続していた。

㉔武家屋敷跡  
幕末の武家屋敷跡の基礎を保存し、整備している。

㉕武家屋敷跡の西側の水路は堀の跡。

㉖天守閣  
1964年に建設した模擬天守閣。石垣上部の、色が違う部分が昭和の継ぎ足し。内部は奥平家の宝物を中心とした展示室。江戸時代、ここには二層の櫓が建っていた。

㉗白壁の復元  
復元した白壁の丸い穴は矢を、四角い穴は鉄砲を撃つための穴で狭穴(さま)という。周囲にあわせて低く復元しているが、本来は人が身体を隠せる高さであった。

㉘裁判所の位置には細川忠興が建立した長福寺があった。息子忠利が、亡き母細川ガラシャの御霊を慰めるミサを行った。

㉙薬研堀の堀底はV字型をしていると言われている。薬を砕くことから薬研堀と呼ばれる。

㉚石を割る位置を変更したため、表面に残った矢穴。他の場所にも見ることができる。

㉛堀には常時、中津祇園の車輪が沈められており、目印の杭が水面から突き出ている。祇園になると車輪は引き上げられる。

㉜椎ノ木門入って右手には、各絵図に扇型の石垣が描かれている。現在残るのは石垣に設けられた出入口跡。扉を取り付けていた痕跡が残る。石垣には数か所「田」「井」「△」などの文字が刻まれているので探してみよう。

㉝鳥居北側の石の表面は、ノミで加工した痕跡がわかりやすい。

㉞椎木門は現在の鳥居の右手。絵図には桁形虎口の正面を塞ぐ壁があり、壁には細かい線が描かれている。平瓦と練土を交互に積みあげた練堀だったと思われる。

㉟道路面に露出する黒門跡の礎石は、元位置よりも上に動かされている。

㊱城の玄関口の大手門跡は南部幼稚園の砂場の下あたり?

㊲江戸時代は大手門の虎口の石垣が道をふさいでいた。

㊳黒田時代には本丸内に寺があった。(小幡英之助銅像真下)梵字を墨書した石出土。寺院の塔心礎か。

㊴南部小学校には大手門石垣の一部が残る。石垣には自地か通り、東側へ継ぎ足された様子が見える。

㊵鏡積みの石垣  
椎木門と大手門の石垣には、威容を示すため大きな石が使用される。直径約1.5mの石でも厚さはわずか20cmほど。横から覗き込んで薄さを確認してほしい。

㊶継ぎ足しの痕跡



川を自然の要塞とした中津城を眺めるには対岸の小祠からの眺望がおすすめ。



⑪大鳥居西側の石垣断面では城内側に石垣が継ぎ足された様子が見える。



⑭石垣に登って、反対側をみてみよう。道路をはさんだ石垣が東西方向に緩やかなカーブを描いている(輪どりの)のがわかる。力を内側に集中させて崩れにくくする技法。



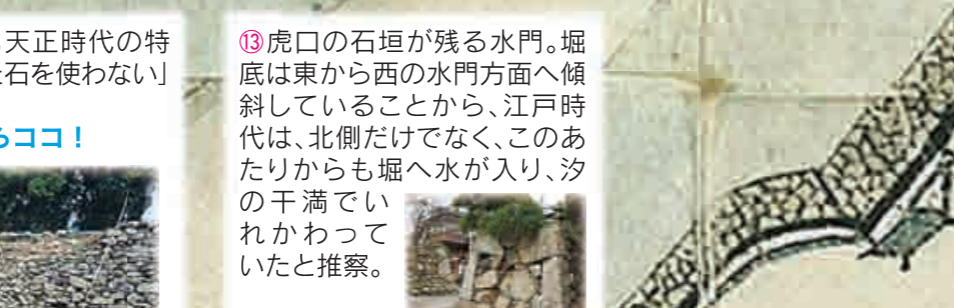
⑮南部小学校は家老の生田家跡地。敷地の北側にあった生田家の門は西側に移築され、小学校の正門となっている。



⑰石垣の西側の水路は川跡。汐の満ち引きで水路は水につかるので注意。水路沿いの低い石垣は、基礎の部分は初期段階の可能性あり。



⑱小倉口  
中津城に入る6つの木戸口の一つ。小倉側に通じる橋が架かっていた。現在はコンクリートの橋だが、幕末の絵図では、太鼓橋が描かれている。橋から南側を見ると堀跡の面影が残る。



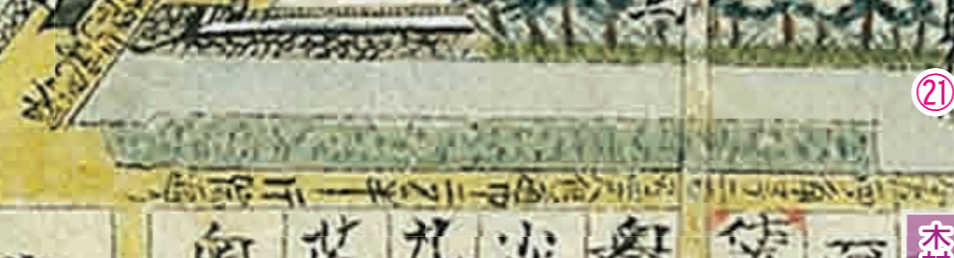
⑩工事中に見えられた城内側の石垣には、階段があった。一番上の段は角塔婆という墓石を横たえて踏み段にしている。三角の頭と水平の刻線が特徴。



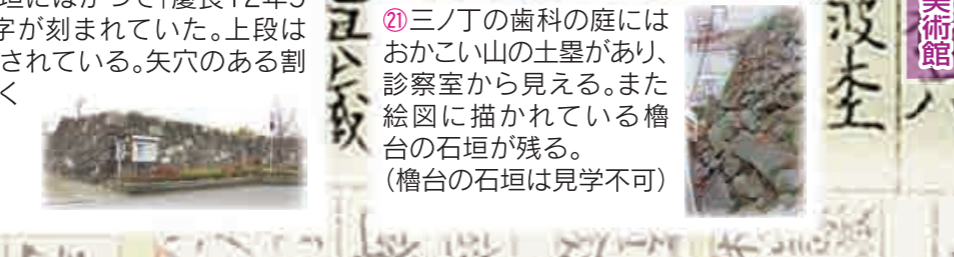
⑫堀に張り出した出角の石垣が最も天正時代の特徴を持っている。「反らない」、「加工した石を使わない」のが特徴。九州最古の近世城郭の石垣を見るならココ!



⑬虎口の石垣が残る水門。堀底は東から西の水門方面へ傾斜していることから、江戸時代は、北側だけでなく、このあたりからも堀へ水が入り、汐の干満でいれかわっていたと推察。



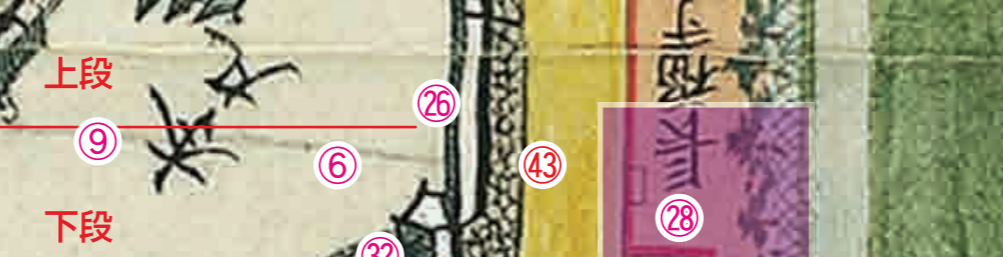
⑮南部小学校は家老の生田家跡地。敷地の北側にあった生田家の門は西側に移築され、小学校の正門となっている。



⑰石垣の西側の水路は川跡。汐の満ち引きで水路は水につかるので注意。水路沿いの低い石垣は、基礎の部分は初期段階の可能性あり。



⑧古くは角塔婆という墓石を横たえて踏み段にしている。三角の頭と水平の刻線が特徴。



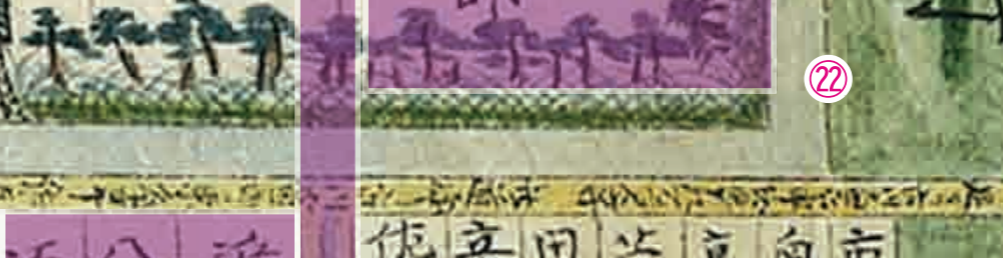
⑩工事中に見えられた城内側の石垣には、階段があった。一番上の段は角塔婆という墓石を横たえて踏み段にしている。三角の頭と水平の刻線が特徴。



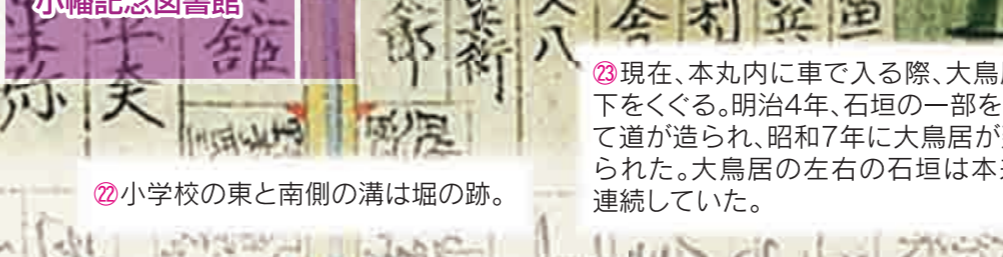
⑫堀に張り出した出角の石垣が最も天正時代の特徴を持っている。「反らない」、「加工した石を使わない」のが特徴。九州最古の近世城郭の石垣を見るならココ!



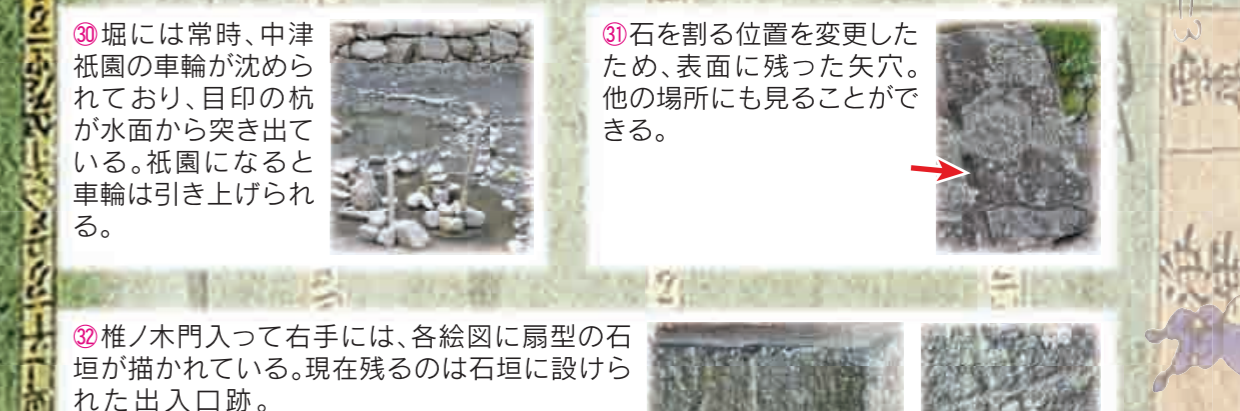
⑬虎口の石垣が残る水門。堀底は東から西の水門方面へ傾斜していることから、江戸時代は、北側だけでなく、このあたりからも堀へ水が入り、汐の干満でいれかわっていたと推察。



⑮南部小学校は家老の生田家跡地。敷地の北側にあった生田家の門は西側に移築され、小学校の正門となっている。



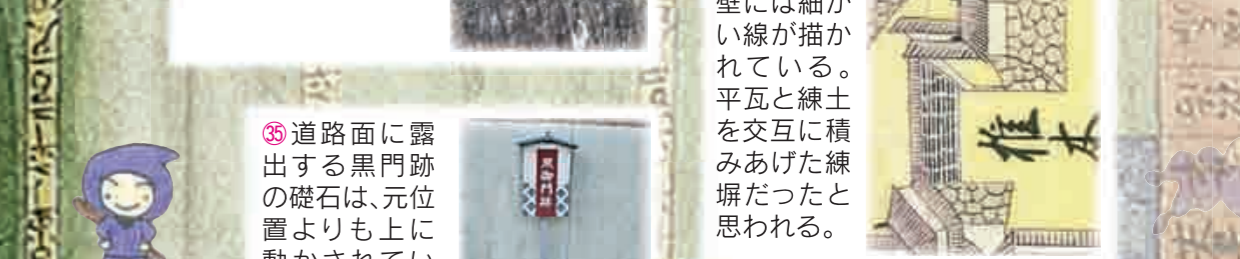
⑰石垣の西側の水路は川跡。汐の満ち引きで水路は水につかるので注意。水路沿いの低い石垣は、基礎の部分は初期段階の可能性あり。



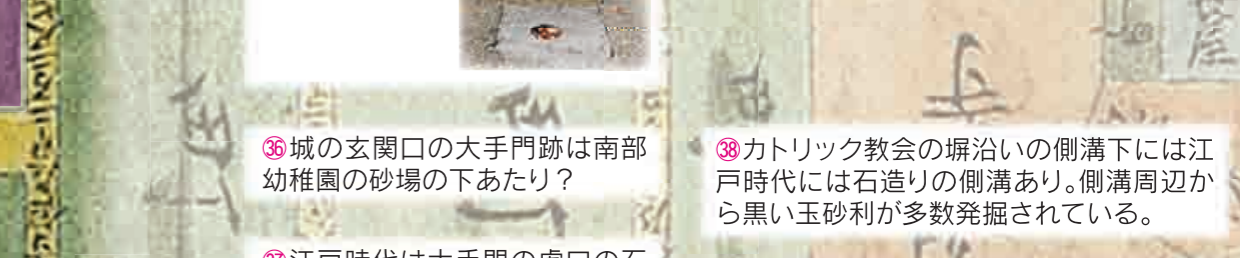
⑧古くは角塔婆という墓石を横たえて踏み段にしている。三角の頭と水平の刻線が特徴。



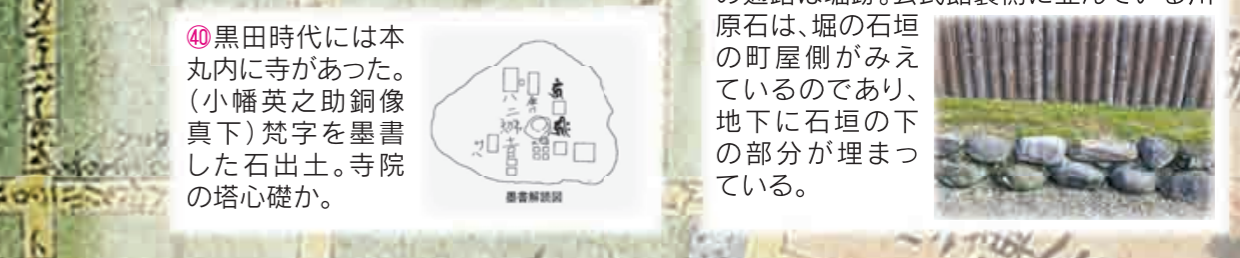
⑩工事中に見えられた城内側の石垣には、階段があった。一番上の段は角塔婆という墓石を横たえて踏み段にしている。三角の頭と水平の刻線が特徴。



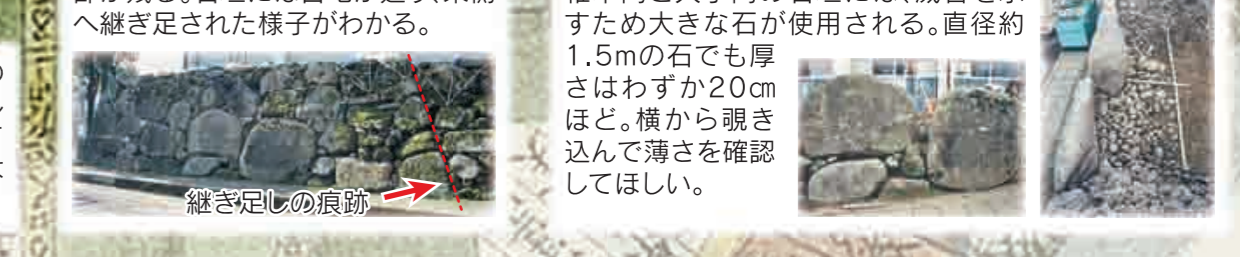
⑫堀に張り出した出角の石垣が最も天正時代の特徴を持っている。「反らない」、「加工した石を使わない」のが特徴。九州最古の近世城郭の石垣を見るならココ!



⑬虎口の石垣が残る水門。堀底は東から西の水門方面へ傾斜していることから、江戸時代は、北側だけでなく、このあたりからも堀へ水が入り、汐の干満でいれかわっていたと推察。



⑮南部小学校は家老の生田家跡地。敷地の北側にあった生田家の門は西側に移築され、小学校の正門となっている。



⑰石垣の西側の水路は川跡。汐の満ち引きで水路は水につかるので注意。水路沿いの低い石垣は、基礎の部分は初期段階の可能性あり。